

# フードマイレージを用いたSDGs活動

## 1. SDGsにおける日本の課題

2015年に国連総会で「Sustainable Development Goals : SDGs（持続可能な開発目標）」が採択されてから8年が経過しました。日本でも様々な取り組みが行われていますが、2023年6月に公開されたSDGsの達成度および進捗状況に関する国際レポート「Sustainable Development Report 2023（持続可能な開発レポート）」によると、達成度は166カ国中21位であり、2017年から後退し続けています。

### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



### SDGsとは？

世界には貧困、戦争、気候変動、感染症など様々な課題があります。そこで、人類が安心して過ごせる持続可能でよりよい世界を目指し、2030年までに達成すべき国際目標が立てられました。それがSDGsです。17のゴール、169のターゲットで構成され、世界中の人々が協力しながら取り組んでいくことが求められています。

「達成済み」とされた目標はわずか2項目で、「課題が残る」、「重要な課題がある」、「深刻な課題がある」とされたものはそれぞれ5項目であり、その多くが食にかかわる目標です。特に、食料の多くを輸入品に依存する日本は生産、加工、流通、消費、廃棄などのフードシステムの側面から解決していくことが求められています。



#### 【課題が残る】

目標1、目標3、目標6、目標11、目標16

#### 【重要な課題がある】

目標2、目標7、目標8、目標10、目標17

#### 【深刻な課題がある】

目標5、目標12、目標13、目標14、目標15

出典：Sustainable Development Report 2023

そこで、フードシステムにおけるフードマイレージ（食料の輸送量(t)×輸送距離(km)）に着目し、フードマイレージ削減に向けた食育教材の開発と食育活動を行うこととしました。

フードマイレージは、食糧輸送の際にかかる環境負荷を数値化したもので、値が大きいほど環境負荷が重いことを意味しています。削減に取り組むことは、目標3「すべての人に健康と福祉を」、目標7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、目標10「人や国の不平等をなくそう」、目標13「気候変動に具体的な対策を」、目標14「海の豊かさを守ろう」、目標15「陸の豊かさも守ろう」をはじめとする多くの目標の達成に良い影響をもたらす可能性があります。

## 2. フードマイレージを用いた食育媒体の開発と食育活動

フードマイレージの観点から「持続可能な社会の実現のために今、私たちができること」をテーマとした食育媒体を制作しました。高校生と大学生向けとし、食の選択場面において現状を振り返ったうえで、フードマイレージに配慮した食の選択方法について考えたり、ディスカッションを行ったりできる内容としました。



この食育媒体を活用して千代田区の高等学校、大学に通う高校1年生と大学1年生に食育を実施した結果、「日常生活で、SDGsおよびフードマイレージに配慮した食品を選ぼうと思いましたが」の問いに対し、高校生では100%、大学生では約94%が「取り入れたい」と回答しました。食育を通じて、SDGs達成やフードマイレージの削減に向けた意欲が高まったことが示唆されました。

## 3. フードマイレージに配慮したSDGsランチの開発



SDGs普及啓発活動の媒体の一つとしてフードマイレージに配慮したメニューを開発しました。フードマイレージが高い小麦粉に代えて、国産の米粉を使用し、「SDGsランチ」として千代田区内のレストラン、日比谷パレスで販売しました(2023年9月1日~30日)。喫食者が選んだ理由から「SDGsに貢献できるから」よりも値段や大学生との共同事業に魅力を感じている傾向にあることが分かりました。つまり「環境にやさしいメニューを選んでもらう」ことよりも「食べたいものが自然とSDGsに貢献できる」魅力的なメニューを開発することがSDGs活動の促進に有効であることが示唆されました。

以上の結果から、フードマイレージはSDGsに関する食育の題材として有効と考えられました。加えて、SDGsおよびフードマイレージの普及啓発活動の推進を行うとともに「自然とSDGsに貢献できる機会」を提供することが重要であると示唆されました。

今後、SDGs達成に向けて貢献できる選択肢を増やし、消費者が貢献度を実感できる環境を整えていく必要があると考えられます。

### プロジェクト概要

- テーマ  
フードマイレージを用いたSDGs活動
- パートナー  
日比谷パレス  
東京家政学院高等学校
- 担当教員  
人間栄養学部 人間栄養学科  
准教授 加藤理津子
- 実施期間  
令和5年7月~11月

20